

つながる回覧板

Connecting circular board

東薬 生命科学と社会
 谷戸勇紀¹⁾ 高橋直人¹⁾ 小橋美貴¹⁾ 大江凛¹⁾
 指導教員 熊澤 義之²⁾, 研究協力者 石井彩絵¹⁾ 山下花奈¹⁾

- 1) 東京薬科大学 生命科学部 生命科学と社会
 2) 東京薬科大学 生命科学部 応用生命科学科 食品科学研究室

日本語アブストラクト (必須) : 現在存在する回覧板に交換日記のようなページを解けることで地域の人同士のつながりを生む
 易い文章にする。

キーワード (必須) : 回覧板, 繋がり

1、提案

私たちは八王子市役所から『意識・無意識に関わらず、人とひと、人と地域に自然と“つながり”が生まれる行動変容を起こすために、どんな仕掛けをすれば良いのか?』という課題を与えられました。そこで私たちが提案したのは『つながる回覧板』です。

2、つながる回覧板とは

現在、回覧板が存在する、しないに関わらず、多くの地域に回覧板を導入して、そこに交換日記のようなページをつけることで、交換日記を通じた地域の人とのコミュニケーションの活性化を図るという事ができます。

交換日記のような回覧板を導入することで「どのような悩みを持っている人がいるのか知ることができる」、「地域活動への関心」、また費用については紙のみなため安価に抑えることができます。

3、交換日記のメリットと手書きの効果

回覧板に交換日記をつけることのメリットとして匿名性であるため気軽に書き込めること、無理に参加は強要しないことなど、人とひとのつながりを作る上で様々なメリットがありますが、そのメリットの一つとして“手書きの効果”が挙げられま

す。

早稲田大学の研究結果によると、『書き手の誠意や人柄、その時々感情状態が表出されているという認識がある。』

また、『誠意が表出されるという認識が、情動的印象の伝達にも影響を与えると推測される』

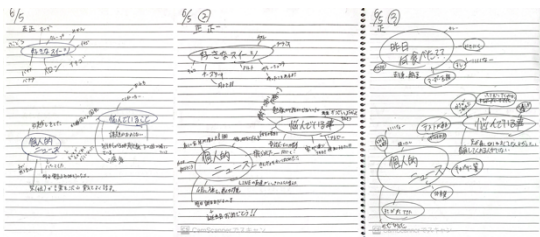
ということが示されています。よって SNS 上でのやり取りが主流になっている現代に、あえて手書きでやり取りすることに私たちはメリットがあると考えています。

4、実験、アンケートと結果

そこで、実際回覧板をまわすと、どのようなつながりが生まれるのか、やってみました。

実施内容としては、5月29日と6月5日に、駅まえテラスで過ごしている方々に、回覧板に交換日記が回ってきた想定で、ノートに書き込みをしてもらいました。また、その後簡単なアンケートを行ってもらいました。

最終的に回ってきた回覧板がこちらになります。



6月5日の1回目の回覧板は10人の方に参加してもらいました。この回覧板には主に子供連れのお母さん、お父さんに参加してもらい、『幼稚園の入園先が決まらない』などの悩みを共有していました。

6月5日、2回目の回覧板は11人の方に参加してもらいました。参加した方は主に学校終わりの中高生が多かった印象でした。書かれた内容は例えば『明日誕生日!』という内容に対して『おめでとう!』などのコメントが寄せられるなど、ほっこりするものが多かったです。

3回目は若者からお年寄りまで様々な世代の方に参加していただきました。挙げられた悩みとして、『足が痛くなりやすくて看病してくれる人がいない』、『テストがある』など年齢層が幅広いからこそ違う悩みが見受けられました。

アンケートの結果です。

『繋がりを感じられた?』という問いに対して、“感じられた”と答えた人が86%でした。私たちは、つながりとは、自分のコメントに対するリアクションを見る事ができた時や、近隣に住む人に共感した時に感じるものだと思っています。私たちはこの回覧板が実際に二周、三周した際に、より多くのつながりを感じられるのだと考えます。

5、考察

私たちが行った実証実験から、改めて考える回覧板のメリットは以下の通りです。

まず、『いざという時にご近所さん同士で助け合う事ができる』事です。『アトピー』や『子供の発達が遅い』『膝が痛くて困っている』など、回覧板に

は多くの悩みが集まりました。こういった悩み事を近隣住民で、共有する事で、ご近所同士で助け合うきっかけになると思いました。

また、回覧板が『対面でのコミュニケーションのハードルを低くする可能性がある』という事も挙げられます。

さらに、この実証実験から、楽しい、やりたいと回答した人が多いことも事実です。

6、感想

そして何よりも、私たちは、『文面で誰かと交流したりすることは、人をひとりにさせない』と考えています。

誰かの好きなものや、最近あったこと、悩み事を知るだけで、普段意識していなかった近隣の方に目を向けるきっかけになるのではないのでしょうか？また、自分のことを書くことで、多少は気持ちが楽になると考えます。特に大きな悩み事や、最近あったことを無理して書く必要はもちろんなく、自分のすきなものを共有したり、誰かの好きなものに共感するだけでも、立派な繋がりだと考えます。顔は見えなくとも、文面で行われる、『知る、知ってもらう、共感する、共有する』といった行為は、きっと心のどこかで繋がりを感じさせると考えます。

7、参考文献

今回参考にした引用文献になります。

寺田恵理・保崎則雄 『手で書くこと、手書き文字に対する認識に関する一調査』

株式会社志陽堂 [回覧板のご参考価格 | 志陽堂 ショップ \(shiyodo.co.jp\)](http://shiyodo.co.jp)

モノタロウ [コピー用紙 普通色 PEFC認証品 モノタロウ モノクロ対応用紙 【通販モノタロウ】 \(monotaro.com\)](http://monotaro.com)